

第1回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会

日 時 令和元年7月1日(月)午後6時30分～午後8時25分

場 所 本庁舎3階 第一会議室

出席委員 7人

委員長 渡 邊 嘉二郎 委員

副委員長 小 川 順 弘 委員

委 員 鴨 下 明 子 委員 橋 田 壤 志 委員

松 本 敏 朗 委員 山 本 彩 子 委員

天 野 建 司 委員

欠席委員 2人

委 員 小 宮 貴 大 委員 本 間 紀 行 委員

事務局職員

企画政策課長 梅 原 啓太郎

企画政策課企画政策係長 古 賀 誠

企画政策課企画政策係 鎌 田 莉 央

傍 聴 者 0人

(午後6時30分開会)

◎渡邊委員長 ただいまから第1回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会を開催します。

「議題1 新規委員について」を議題とします。

今年度より新たに山本委員に加わっていただくこととなりましたので、初めに山本委員に御挨拶いただきたいと思います。

◎山本委員 皆さん、こんばんは。多摩信用金庫価値創造事業部の山本と申します。沼崎が1月に異動になりまして、後任という形で私が引き受けさせていただきました。実はこちらの小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略を作るときにこちらの委員をやらせていただいたところがありまして、またこういった形で協力させていただくのは何かの御縁かなと感じております。委員長や本間委員、小宮委員は当時いらっしゃったかなと思っております。

私は立川で仕事をしているんですけど、まちづくりグループということで、金融業務というよりは地域の方とか自治体ですとかそういった方といろいろな地域の活性化とかに取り組ませていただいております。

今回、広報たまちいきという多摩信用金庫が月に1回出している情報誌がありまして、こういった編集もやらせていただいております、これは6月号なんですけど、東小金井駅エリア

を表紙にしているのも、もし興味のある方がいらっしゃいましたら見ていただければと思います。

これからよろしくお願いします。

◎**渡邊委員長** ありがとうございます。今年度につきましては、本間委員と小宮委員を含めたこの強力なメンバーで委員会を行っていきますので、よろしくお願いします。

◎**山本委員** ありがとうございます。

◎**渡邊委員長** 以上で議題1を終了します。

◎**渡邊委員長** 次に「議題2 事務局紹介について」を議題とします。

事務局からの説明を求めます。

◎**古賀企画政策係長** それでは、事務局におきましても担当に変更がございますので紹介させていただきます。

企画政策係の鎌田です。

◎**鎌田企画政策係主事** 鎌田です。よろしくお願いします。

◎**古賀企画政策係長** 今年度につきましては課長の梅原、鎌田と私の3人で担当させていただきますので、よろしくお願いします。

◎**渡邊委員長** 以上で議題2を終了します。

◎**渡邊委員長** 次に「議題3 開催スケジュール（案）について」を議題とします。

事務局からの説明を求めます。

◎**古賀企画政策係長** それでは、今年度の開催スケジュールについて説明させていただきます。

初めに「資料1 第2期「総合戦略」の策定スケジュール（案）」を御覧ください。

本資料は平成31年4月24日に開催された国の会議資料からの抜粋となります。なお、裏面に抜粋元が分かるように資料の表紙の写しを入れております。

表面にお戻りください。上半分が今年度における国の動き、下半分が今年度における国から地方への支援ということで、このスケジュール（案）に沿って今後の地方版総合戦略を検討していくこととなります。

このスケジュール（案）によりますと、今後、「地方版総合戦略策定のための手引き（改訂版）の公表」、「次期地方版総合戦略の策定に係る説明会の開催」が予定されています。

併せて「資料1-2 まち・ひと・しごと創生基本方針2019について」を御覧ください。

令和元年6月21日に閣議決定された基本方針からの抜粋となりますが、6ページの最後の段落に「国から地方公共団体における次期「地方版総合戦略」の策定や「地方人口ビジョン」の改訂に資するよう、国における「長期ビジョン」や第2期「総合戦略」の検討状況に関する情報提供を行うなど、必要な支援を行う」と記載されておりますので、今年度の本委員会の開催につきましては、これらを見据えながら開催したいと考えております。

次に「資料2 開催スケジュール（案）」を御覧ください。今年度は3回開催する予定ですが、これらを考慮し、2回目を10月、3回目を来年1月頃に開催したいと考えております。

なお、このスケジュール（案）につきましては、現時点での予定であり、今後、国から示される内容によっては開催月を変更する可能性があることを御承知おきください。

続きまして「資料3 長期総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について」を御覧ください。

昨年度の第1回委員会の中で説明させていただいた資料ですが、新しい委員の方もいらっしゃいますので、改めて説明させていただきます。

現在、本市には平成28年3月に策定した「第4次基本構想・後期基本計画」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」がございます。

「第4次基本構想・後期基本計画」が平成28年度から令和2年度までの5か年計画、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が平成27年度から令和元年度までの5か年計画となっておりますが、この2つの計画につきましては共通する項目も多く、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げられているKPI指標39項目のうち、31項目が「第4次基本構想・後期基本計画」と重複する指標となっております。

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましては、国の総合戦略に基づいて策定しているものであり、令和2年度以降についての情報はこれから示されるわけではありませんが、現時点での市の考えとしましては、現在の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の目標年度は令和元年度までとなっておりますので、1年延伸した上で令和2年度までの計画とし、次期基本計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略を令和3年度からの計画として一つにまとめたいと考えております。

◎渡邊委員長 事務局からの説明に対し、質問等がございましたらお願いします。

（「なし」の声あり）

◎渡邊委員長 以上で議題3を終了します。

◎渡邊委員長 次に「議題4 新たな計画策定に向けた意見について（意見書の最終確認）」を議題とします。

事務局からの説明を求めます。

◎古賀企画政策係長 それでは、「資料4 新たな計画策定に向けた意見について」を御覧ください。

昨年度から委員会での御議論、またメールによる確認作業に御協力いただき、ありがとうございました。

昨年度の第6回委員会以降、委員の皆さんからいただいた意見を踏まえ、正副委員長において御調整いただいた意見書になります。

昨年度の第6回委員会において、今後の調整につきましては正副委員長一任を確認したとこ

ろではございますが、本日、最終案を示させていただきました。

今後につきましては、本日御確認いただいた後、直近に開催される小金井市長期計画審議会へ渡邊委員長から提出いただく予定となっております。

◎渡邊委員長 事務局からの説明が終わりました。

前回の第6回委員会時は1枚ぐらいの意見書でしたが、本間委員や小宮委員からもう少し充実した方がいいのではないかとの意見があり、また市民の方から意見・提案シートで同様の御意見をいただきました。

それらを受け、少し中身をブレイクダウンした格好でこの委員会で出た意見を全部網羅した形でまとめたらどうだろうかということで事務局の方でまとめていただいたのが資料4でございます。

なお、長期計画審議会が先週の金曜日に既に始まっておりまして、第2回が7月12日に開催される予定ですので、そこで本委員会からの意見書を提出できればと思います。

何か御意見等がございましたら、お願いします。

(「なし」の声あり)

◎渡邊委員長 それでは、意見書については委員長一任で最終調整を行い、私が本委員会を代表して長期計画審議会へ意見書を提出することとします。

以上で議題4を終了します。

◎渡邊委員長 次に「議題5 「小金井市まち・ひと・しごと総合戦略」施策の効果検証について」を議題とします。

事務局からの説明を求めます。

◎古賀企画政策係長 これから各評価シートについて検証していただきますが、事務局から本市の状況について説明させていただきます。

「資料5 小金井市の人口分析」を御覧ください。

平成28年3月に小金井市人口ビジョンを策定したところですが、その当時に作成した2009年から2015年までの人口の推移の実績に、2016年から2019年までの情報を新たに追加したものとなります。

区分につきましては大きく3つに分けており、1が日本人のみ、2が外国人登録人口のみ、3が1と2を合算したものとなります。

また、3の合算したものにつきましては、町別人口の推移、地区別人口の推移及び当時の人口推計と実績値の比較を掲載しております。

さらに4として、平成30年の外国人を含んだ5歳階級別の転入・転出者数及び差引数、5として、平成30年の都内区市町村別転入者数及び転出者数について掲載しております。

次に「資料6 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略数値目標の達成状況について」を御覧ください。

これまで委員の皆様には、K P I 指標の検証を行ってきていただいたところですが、それぞれのK P I 指標の他に基本目標を掲げておりまして、今回、現時点での達成状況について一覧にまとめておりますので参考にしてください。

なお、基本目標1の「市内滞在人口の1日平均人口の増加」につきましては、R E S A Sからの情報を基に設定したのですが、現在はR E S A Sからこの項目自体がなくなっており、平成30年度の情報を確認することができないため、空欄としております。

また、基本目標1の「市内3駅の1日平均の乗客数の増加」及び基本目標2の「合計特殊出生率の向上」につきましては現時点で確認できる最新の情報が平成29年度の数値のため、平成29年度の数値を記載しております。

最後に、本日机上配付させていただいた「評価シートに係る各委員からの確認事項」及び「小金井市観光まちおこし協会のホームページ（写し）」を御覧ください。各委員からの質問事項に対する各課からの回答をまとめた資料となりますので参考にしてください。

◎渡邊委員長 事務局からの説明が終わりました。

何か御意見等がございましたら、お願いします。

（「なし」の声あり）

◎渡邊委員長 それでは各評価シートの検証に入ります。資料7ですね。厚いやつです。まず全体を見ていただくと、1ページ目で、一番右側のところでCとついているのが3番目の市街地の再開発事業完成数と、「地域情報発信サイトの市ホームページへの連携」、この辺がCですが、ちょっと評価の方が。それから、次のページ、2ページ目に行くと、「はげの森美術館の入館者数」がD評価。それから、3ページ目でいくと、基本方向3の「しごとづくりに関する相談件数」がD評価になっています。それから、4ページ目でいきますと27の「高齢者自立支援住宅改修給付事業の給付件数」がD、「自主防災組織の数」がC、それから、「地域密着サービス事業所数」がD、それから、「図書館における住民1人当たり図書貸出冊数」がDということで、若干評価が異なっていると。

その他についてはAとBということで、おおむねいいかなという全体的な感じはこんなふうになっています。全体の像はこんな感じが出ておりますけれども、ここのところで何か御質問等ありますか、全体像。これから個別的看着ると、そこではっきりしてきます。

よろしゅうございますか。

（「はい」の声あり）

◎渡邊委員長 では、ちょっと具体的に見ていきたいと思っておりますけれども、まず最初に、「小金井市の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち」ということで1から15ある。1はちょっと保留になっているんで、2から15まで、これについてちょっと見てまいりたいと思っております。

評価シートの2、これは住居専用地区の割合が指標になっています。昨年から比べると85.9%、85.9%で、これは変わらないということでして、皆さんの御意見をまとめたのが評価

シートの下の段の一番右端にございまして、都市計画変更がなく27年度から結果の説明と次年度に向けた課題・展望は変わらないため、評価は変わらない。都市計画に変更があった場合に改めて指標につけ加えればよいのではないかと。また、計画どおりに進捗しているが、自ら決定権を有さない施策を指標として取り上げることに疑問があり、次期計画では指標を見直す必要があるとの意見もある。こういう意見が出たという格好で整理されています。

皆さんの御意見を整理した格好でいくと、こういうコメントになってございます。どうでしょうか。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 それで、次、評価シートの3です。これは、指標が「市街地再開発事業施行完了地区数」というのが指標になっております。これも同じような感じなんですけれども、評価としてはCですけれども、事業は順調に進んでおり、事業の進捗による目標も必要である。また、地元企業や地域とのつながりを大切に積極的な取組を行ってほしいと。残るは新小金井駅周辺のまちづくりと考えるということで、皆さんの御意見がここに集約されているということです。いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が評価シート4で、「東小金井駅北口土地区画整理事業の建物移転進捗率」ということがKPIになっていまして、これは70%から79%ということで、昨年より9%向上している。評価はBでありますけれども、事業は着実に進んでおり、努力は評価できる。早期完了に向けて取り組んでいただきたいということで、皆さんの御意見を整理したものでございます。いかがですか。よろしゅうございますね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が評価シートの5でございます。「小売業の年間商品販売額」、これが指標でございます。昨年が860億1,400万円で、今年も860億1,400、同じ額でA評価ですけれども、前年度と同じ指標の結果、この評価が難しい。何らかの目安となる指標を別途採用すべきではないかということですが。

◎古賀企画政策係長 経済課で作成していただいたシートになります。経済センサスという平成28年度に実施された指標結果というのをそのまま引用しているんですけれども、いわゆる情報の更新というのが毎年というよりは、ちょっと年によっては数字が出ないということがあるので、平成28年度を見ていただくと、経済センサスのほかに商業統計調査の指標結果というものもありますけれども、この辺で、いわゆる経済課とすると、情報が必要な時点での最新の調査結果を引用しており、今回に関しましては経済センサスの28年度の結果からの引用となっており、結果自体が昨年と変わらないので委員の皆さんから資料に記載されているような御意見をいただいているというところです。

◎渡邊委員長 ということで、前年度と同じ指標結果のため、評価が難しい。何らかの目安となる指標を別途採用すべきじゃないかということで、委員会としてはこういうことを提言した

い考え方でございますね。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 それから、評価シート6でございます。これは「東小金井事業創造センター卒所予定者の市内内定率」という指標です。昨年が46.15%で、今年は53.86%と増加しているということです。

委員会の皆様の御意見をまとめたのが目標値を上回っていることを評価すると。東小金井事業創造センター卒所予定者の市内定着率の目標値50%にも関わることであり、さらなる定着率の増加を期待するというまとめだと思います。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 それから、評価シートの7ですけれども、「観光協会のホームページアクセス数」ということでございます。昨年は3万3,231件で、今年は11万2,528件、かなり大幅にこのアクセス数が増えたと。したがって、DからAの評価ということで、アクセス数増加は評価すると。費用対効果の観点から常に見直し、引き続きSNSやチラシなど情報セキュリティにも配慮しつつ、多方面からの周知を期待するという皆さんの御意見をこんな格好でまとめています。大分増えましたね。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 評価シートの8、「地域情報発信サイトの市ホームページへの連携」ということで、市ホームページ内における市に関する情報を発信する。他団体へのリンク数ということです。評価はCということでありまして、基本方針策定を評価するが、今後、市民との協働が不可欠であり、行政の枠にとらわれず、小金井市の魅力をどの層にも落とし込めるようなプロモーションをしてほしい。また、これらの方針を決めるようでは少し遅いという意見や、「拡充」という目標を設定すること自体がKPIの趣旨から逸脱しているのではないかという意見もあったということで、皆さんの意見を集約したと。

私自身、小金井ロータリークラブでホームページにリンクしたんですけど、意見というのが少ない。でも、ちゃんと小金井市のホームページを英訳と中国語と韓国語と、4か国語にちゃんと翻訳したものをアップしたんですけど、こういう意見でよろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 では、評価シートの9、「桜まつり等の来場者数」、これが指標であります。桜まつり、阿波踊り大会、お月見のつどい、これらの合計を評価して、去年が21万5,000人だったのが今年はいまじき30万、29万9,000人ということで、かなり上がった。その結果として、DからBに評価している。来場者数は評価すると。お月見のイベントについては、他のイベントとの再編・統合とがあるが、その際には、初心に戻って検討をお願いするとともに、新たな魅力あるイベントや、天候に左右されないイベントも考えてほしいということで、皆さんの御意見を集約したという格好です。いかがですか。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 その次は、評価シートの10で、これは「市民交流センターの稼働率」、市民交流センターの有効区分数における貸出区分数の割合ということです。去年が85.1%、今年が84.6%ということで、ほぼ横ばいということで、これは27年からずっとほとんど同じような値で、少しずつ変わっている格好です。皆さんの御意見をまとめて、高い稼働率を維持しており、評価できると。ブランドの維持向上に期待したいという評価で、皆さんの言葉をまとめたということのようです。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 とりあえず行って、次が評価シートの11で、「はけの森美術館の入館者数」ということで、これには、はけの森美術館にて開催した展覧会やワークショップ等、そういうのに参加する人数の総和ということで、3,958人から4,807名。これは1,000名弱増えたということですが、まだまだ5,546から足りないねということで、D評価です。このところでは、はけの森美術館の入場者数の目標5,900人を達成するために、周辺的环境、野川やその附帯設備を用いるイベントとの連携や市民からの募集を考えてはかがかど。また、SNS等を活用するなど、予算に左右されない広報活動を考えたらいかがかということ、皆さんの御意見を集約したということです。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が評価シート12でございます。「滞在人口」ということで、休日の9時から午後5時までにおける市内の滞在人口、この指標です。去年が11万2,144名で、今年は11万2,160名。ほぼ同数かなと。去年もBでしたが、今年もBということで、持続的にこの人数を増やすためには単発的なイベントでは限界がある。他団体と連携し、継続的な交流人口増加の仕組みを作り、小金井における経済活動、文化活動などを総動員して取り組むべきだと思う。また、市境界からの出入りを計測する副次的データや、市民以外の利用状況を示すサンプル調査などが必要ではないかということで皆さんの御意見を集約しているということです。広報をもう少し考えてはかがかということですね。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が13で、「市民協働支援センターの準備室の相談件数」ということで、市民協働センターの準備室で受けた相談件数のことでございます。これは去年が152件で、今年が179件と。これは年々少しずつ増えているということですね。今年は昨年から比べて27件くらい増えたということで、パーセントでいくと15%ぐらいだろう。件数は増加し、認知されてきており、その努力を評価すると。人権・平和・男女共同参画の推進施策とも整合性があり、協働は行政にとっても市民にとっても重要なので、総合的に強力に進めてほしいということで、皆さんの御意見を集約したということでございます。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が「国際交流事業の参加人数」ということで、国際交流事業に参加した人数です。去年が256名、今年が239名と若干減少しました。でも、前から見ると大体こんな

人数。ちょっと減ったのかなという感じです。B評価ということで、ずっと同じような数値だから、Bということだと思います。

交流を活発にするためにもコンテンツを増やすなどして充実させたり、ニーズに応じた事業内容の見直しを行ってほしい。また、連携協定を結ぶ大学には多くの留学生がおり、協定を活かす意味でも行政から大学に働きかけを強化すべきであるということで、小金井市さんは御存じのように、学芸大、農工大、法政大学等々の大学と連携していますので、そこでの協力を仰ぎたいということでございます。

それで、評価シート15ということで、これが「小金井の魅力を発信し、交流人口増加を図ることにより、地域の活性化をつながるまち」という基本目標の最後になります。審議会等における公募市民の割合ということで、審議会等における構成委員のうち公募市民が占める割合が幾らかということであり、大体20数%で、昨年が23.2で、今年は22.9ですから、ほとんど変わってないということで、B評価ということですよ。

審議会への市民参加の意義について、行政と参加しようとする市民の間で合理的に共有する仕組みが必要であると。お願いする行政にも、受けた市民にも責任がある。審議対象の範囲を明確にして何を審議するかを明確にして参加を促す必要があり、中学生の市長への提言などとも関連をつけるとよいのではないかとということで、皆さんの意見をまとめたという感じでございます。

以上、ここまで評価シート2から15まで、「小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性につながるまち」という検討をずっと見てきましたけれども、改めて評価シート2から15のところでは何かコメントがあればいただきたいんですけども、いかがでしょうか。

◎小川委員 ホームページのところだけずっと毎回、Cなんですね。本当に何が課題なんだろうなと思うんですけども。

◎渡邊委員長 評価シート、どこでしたか。

◎小川委員 評価シートの8です。8が27年度から30年度のところまで、ここだけがずっとC評価で来ているんですね。

◎渡邊委員長 まさに今、先生言われているように、いろいろなアイデアを出したほうがいいでしょうね。

◎小川委員 松本委員がおっしゃっていた拡充というところ、趣旨から逸脱しているんじゃないかと。何か意見があれば教えていただければと思ったんですね。拡充じゃなくて、どんな形がいいのでしょうか、例えばこれを評価するというようなときは。

◎松本委員 P D C A方式というのは、より具体的に目標を立てて、それに向けてどういうふうに何をやっていって、その結果がどうなって、それがだめなら、ぐるっと回して、また改善するという話ですが、「拡充」という目標だけでは何の機能も果たさないんじゃないんですか。

◎渡邊委員長 目標が変わっちゃう。

◎松本委員 だったら、むしろやめたほうがいいんじゃないですか。

◎渡邊委員長 目標の設定自身が変わっちゃう。

◎松本委員 何を考えているかということですね。多分考えてないんだと思うんですよ。

◎渡邊委員長 ただ、この分野は日進月歩というのか、ものすごく早く変化するものですから。

◎松本委員 ですよ。だから、これだけやったってほとんど意味がない話なので、そういうのにわざわざこういう目標に入れて、それをどうするんだという具体的な目標も示さないで拡充でやっていきますと言って、これでむやみに時間をとられるというのはナンセンスじゃないんですか。何でもやればそれなりに効果があるんでしょうけれども、そのコストもいろいろとかかる話だから、よりコストパフォーマンスのいいものを選考していくべきなのに、こういうものを機械的に入れて何かやっていますというのは、ほとんど意味を認めませんね、私はね。

◎渡邊委員長 そもそもCという評価が厳しい過ぎるのかもしれない。

◎小川委員 私、コンピューター関係のことはよくわからないところがいっぱいあるんですけど、最近ではホームページでアクセスが減ってきているというのはいろいろなところで聞いたりするんです。フェイスブックとか、LINEとかのほうが速いというか、わかりやすいというようなので、ホームページというのは、小川さんの年代はいいかもしれないけど、今はねなんということを言われたりしたんだけど、どうなのでしょうね。

◎松本委員 そういうことはこちらに専門家がいらっしゃる。

◎山本委員 全然専門じゃないです。

◎渡邊委員長 でも、短期的に見ても、長期的に見ても、この情報化社会における発信の仕方というのは、本当に本格的に考えなきゃいけないことだと思いますね。ありがとうございます。

総括の2から10までコメントあれば。

◎小川委員 滞在人口のところにかかわるんですけども、横の連携がすごく必要だなというのを毎回、思っていて、それぞれの団体がいいことをいっぱいやっているんだけど、そこにも近隣のということがありましたけれど、近隣の市との連携も必要なんだろうなと思いました。具体的などころで言うと、例えば武蔵野、調布、小金井で子供相撲大会というのがたしかあったと思うんですよ。今年は調布場所だったと思うんです。それをやっているときに、例えば小金井もイベントをやっていたりとかというようなことをやったり、例えば参加するような子どもというのは、あっちに行ったり、こっちに行ったりというんで、ばらけちゃうような気がするんですけどね。だから、増やすというようなことを考えると、集中するようなやり方というのも一つ、ありますかなんていう感じはしてございます。

◎渡邊委員長 そういう意味では、青少年の科学祭典、1日で1万、確かに来ている。

◎小川委員 はい。あれはもう他市でやっているものではないので、呼びかけていますので、1万人以上でしたね。

◎渡邊委員長 1万。

◎小川委員 それだけの人が来てということを見ると、すごいなと思いますから。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

それでは、次に、16から25までですけれども、これは「多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち」という基本目標にかかわる指標でございます。評価シートの16でいくと待機児童数、保育所への利用申し込みをしているが、定員超過等により利用できない児童数という評価の数です。人数でいきますと昨年が156名で、今年、88名ということで半減、半分に近いように減っているということで、これは減ったほうがいいわけですから。ということで、待機児童ゼロに向けた取組は評価できるが、更なる目標達成には複数の協議会との連携・協力など大胆な取組が必要であるということでございます。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が同じ目標ですけれども、「認定こども園の設置数」ということがKPIです。これは1園、1園、1園ですけれども、目標達成後の安定運営のための支援は評価できるとの意見と、目標達成後の評価についてはどうすべきかなどの意見がある。並立の意見ですね。こういう格好でまとめられてございます。

これ、何かございますか。ちょっと説明してください。

◎古賀企画政策係長 こちらはそもそもが認定こども園というものを市内に開設しようということで、1園開設を目標にこの間取り組んできたところなんですけれども、目標の1園設置に届き、そこでどうするかというところで、担当課の方とすると、1園開設し、その後、いわゆる継続的に運営を補助していく、サポートしていくといったところで今後の目標のところを記載しています。これは推測の域になるんですけれども、委員さんからしてみると、1園完成して、そこで終了なのか、はたまた1園完成してから次に2園目を目指すのかとか、そういったところでの御意見をいただいているのかなと思います。

私、以前、保育課の方にいたことがあるので、多少この辺のことはわかるんですが、担当課とすると、いわゆる待機児童解消というところで取り組んでいるところなんですけれども、認定こども園というのが一つの園の中で保育園機能と幼稚園機能の2つの機能をあわせ持つ、いわゆる保育のニーズと幼稚園のニーズをともに共有するといえますか、それをあわせ持つというんですか、そういったところが認定こども園なんですけれども、私が当時担当していたころは市内初の認定こども園開設に向けて取り組んでいたところでしたが、そもそもが市として認定こども園の実績というんですか、そういったものがなかったもので、そもそも小金井のニーズというのが、こういったものを求めているのか、当然、いわゆる待機児童解消というところでいくと、あくまで保育園の部分というところになるので、保育園を市民の方々が求めているのかというところを担当課の方とすると探っているところじゃないかなというふうに思っております。

◎松本委員 これ教えてもらっていいですか。1つできましたよね。何人ここで収容しているんですか。

◎古賀企画政策係長 平成29年のところの結果の説明のところに記載があるんですけども、定員は120名程度。先ほど御説明させていただいたとおり、1つの園の中に保育園機能と幼稚園機能ということで両方をあわせ持つ形になるんですけども、保育園の部分の定員が81名、幼稚園の部分の定員が39名ということになります。例えばなんですけれども、保育園の場合は、お父さんお母さんはお仕事をされたりなどして保育要件の認定が条件となりますので、当然、お仕事をやめられたりして保育要件がなくなると退園していただく形になるんですけども、認定こども園というのは、年齢要件はあるものの、保育園機能のところに関しましては、お父さんお母さんどちらかお仕事をやめられて保育要件がなくなると退園しないといけないんですけども、逆に退園せずに、そのまま幼稚園機能の部分で認定こども園に在園していただくことが可能な施設になります。

◎松本委員 待機児童数が156から88に減っているじゃないですか。これとの関係ってあるんですか。

◎古賀企画政策係長 こちらはあくまで待機児童数になりますので、こちらの対象になっているのは認定こども園でいうと、定員120名のうちの81名の部分ということになります。この81名の部分に関しましては、認定こども園の開設に伴いまして、いわゆる待機児童解消に寄与する部分ということになります。当然、既に保育園のほうで4、5歳児というのが大分空きが出てきている状況ですので、81名丸々減ったかと言われると、0、1、2歳児というのは当然のことながら減ってくるんですけども、4、5歳児の部分では募集枠を増やしてもなかなか、それがそのまま待機児童解消につながっていない。いわゆるそこは需要と供給のバランスが逆転しているというところになりますので、なかなかその部分は純粹には減らないというふうな形です。

◎松本委員 言い方おかしいけど、88名残っているじゃないですか。そうすると、これを減らすために何か具体的な考え方というのはあるんですか。

◎古賀企画政策係長 この件については小川副委員長が子ども・子育て会議の委員でいらっしゃいますので詳しいと思うんですけども、子ども・子育て会議という別の会議体があり、そこで待機児童解消には今後どれくらいのキャパが必要かということで保育園を増やすのか、認定こども園を増やすのか、既存園の定員を増やすのかという議論をさせていただいているところです。

◎松本委員 120名規模って結構大きい施設なんですか。

◎古賀企画政策係長 市内では結構大きいほうの部類に入るかなと思います。私が保育課にいた当時のことをお伝えさせていただくと、新設園は大体60名定員ぐらいのところが多かったです。また、都内の認可保育園では自前で園庭を確保することが難しく、いわゆる園庭の部分を近くの公園で代用するということが多かった記憶があります。

そういったところで、この認定こども園は敷地内に園庭を設けておりますし、大きい方の部類に入っているかなと思います。

◎松本委員 滋賀のほうで事故があったじゃないですか。ああいうふうに、中でカバーできないから、外に出て行って事故に遭うという話になる。

◎古賀企画政策係長 そうですね。痛ましい事故が報道されたところですが、市内でも自前で必要な面積分の園庭を確保できない場合は近くの公園を園庭の代替として指定させていただくんですけれども、東京都へ認可申請をする場合はできるだけ交通量が少なく、より安全なルート指定した上で協議をするようにしていますし、東京都との協議の中でルートを変更する場合もございます。

◎松本委員 初期投資規模ってどのぐらいかかるんですか。

◎古賀企画政策係長 自前で全くの更地のところに園舎から建てる場合と、駅前とかに賃貸で入られる場合とで変わってくると思うんですけれども、ケースによっては億単位でかかってくることもあると思います。

◎松本委員 増やしていく上で何が一番隘路になるんですか。障害になるんですか。今、1つだけ、新たに設置できたということでしょう。またどこかでやらないと、カバーできないですよ。そういう数を増やして、収容数を増やそうと思えば、認定ということになるわけですか。認定上、何が一番障害になって、そういう数が増えていかないということになるんですか。

◎古賀企画政策係長 私があくまで保育課に在籍したころのお話でお伝えさせていただくと、当時はやはり保育士不足というのがありました。

◎松本委員 物理的に確保できないんですよね。そういう資格を持っている人も限界が来ているということなんですか。

◎古賀企画政策係長 小金井市も含め都心のほうの自治体で力を入れていたことは、保育士の方々の宿舎に対する助成みたいなものを行い、地方から保育士資格を持っている方々が上京しやすい環境づくりに力を入れていました。また、保育士として働かれていた方々が結婚され、お子さんが生まれてということで退職された後、復帰しやすい環境づくりの一環として、体験的に保育士に戻りませんか、復帰しませんかみたいな取組も行っていました。

◎松本委員 地方から人を持ってこようと思ったら、よそのまち・ひと・しごとには障害になるから、それも困りますね。

◎古賀企画政策係長 まち・ひと・しごとはる施策というのは各自治体の判断で行っているところです。待機児童解消問題というのは地方では解決されつつありますが、都心では待機児童ゼロになっていない自治体はまだ存在する状況でありますし、力を入れている部分です。

◎松本委員 準備さえ整えば、その認定というのは順調にいつているということなんですか。

◎古賀企画政策係長 当然のことながら東京都の事前審査や市で設置している子ども・子育て会議でいろいろと協議していただきながら開設に向けて取り組んでいるところですので、そういったところを経て開設する流れとなっております。

◎小川委員 今、お話があったとおりで、子ども・子育て会議というのがありまして、そこでいろいろ検討をしているというところで、例えば、幼稚園の方では空きがあるんだけれども、

保育園の方はというようなことがあったりとか、一概に、じゃ、これでというのはなかなかできないところだというふうに感じています。

認定こども園などに関しては、施設とか設備とか広さとか、いろんな基準があって、それを協議会のほうで提出されたものを見て、ここのところはもっと改善してくださいというようなことを出して、それがクリアできるとオーケーという形でやっています。

ただ、先ほどの保育士の話なんですけれども、これ東京都全体で言えることなんですけれども、保育士不足というのは確かにあります。給与の面の低さというところが指摘されているんですけれども、それにかかわる補助金とか、市の方でどれくらい出せるのかという予算の問題が出てきたりするというような、いろんな絡みがあるなというのはすごく感じています。

あと、場所のところで言うと、ほかのところなんかもそうだったんですけれども、例えば駅前が必要だねというようなところはあるんですけれども、自転車をとめられると困るからつくってほしくないというような、いろんな、毎回言いますけれども、賛成するのも市民だけ、反対するのも市民という難しい問題が出てきたりして、なかなかすぐにオーケーというわけにはいかないような面もあるようです。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。ちょっと私自身が理解できるのは、目標達成後の評価についてどうすべきかという意見があるというのは、今、話されたようなことを意味しているということですかね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 すいません、次、評価シート18です。子育て支援ネットワーク参加団体数。これは実は2つの団体があって、小金井市子育て・子育て支援ネットワーク協議会と、それから、要保護児童対策地域協議会参加機関数という2つの指標からなっております。それで、上がネットワークのほうで、下が要保護児童対策云々というやつでございます。ネットワークでいくと、68から73団体へ増えている。それから要保護児童対策というのが44から45機関で、1つ増えたということです。上がAで、下がBという評価で、コメントとしては、団体及び機関数の増加を評価する。本市の協議会同士の連携・協力などができ、さらに検討できることはとてもよいと考えており、ネットワークへの連携強化を具体的方策に落とし込んで検討してほしいということで、皆さんの意見を集約しています。両機関ももう少し連携したらいいですね。よろしゅうございますかね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 それじゃ、評価シートの19で、指標が冒険遊び場開催回数、1週間における開催回数ということで指標にしております。週5回、週5回ということで、これはずっと同じでA評価です。目標を達成しており、努力は評価するが、「安全対策の一環として開催日数を年間10日削減し」は若干寂しい。大学や保護者を巻き込んで、安全に実施できる回数を維持したり、安定的な歳入確保のためにもビルド&ビルドではない思考方法があると考えるということで、何かどこか減らしたんですね、これはたしか。それを減らさないで何かできないかと

いうところですね。でも、安全対策が重要なのもよくわかるんですね。よろしゅうございますかね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が、評価シートの20です。指標が、放課後子ども教室の推進委員会形式による実施件数ということで、これは9件、9件ということで、ずっと一定しております。目標は維持ということで、目標達成している。より良いものになるように取り組んでいただきたい。また、この取組には「講師」の確保が重要となるので、予算面でも検討してほしいということで、皆さんの御意見をまとめています。よろしゅうございますかね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が評価シート21で、大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数ということで、これは東京学芸大との学習支援に関する共同研究連携校数ということで、ずっと2校で推移していましたが、今年は2校から14校に増えたんですね。だからCからAになった。全小中学校で実施したことは評価できるが、問題点も出ているところであり、市が連携協定を結ぶ他大学との可能性や。

◎古賀企画政策係長 ちょっとここ文字が抜けています。すいません。

◎渡邊委員長 可能性への役割というか、への働きかけを行っていただきたいということですが、けれども、「や」をとっていただいて、可能性への働きかけを行っていただきたい。

これは小川先生、何か意見あるんじゃないですか。

◎小川委員 ただ単に数値が増えればいいのかなというようなところ。前にも話したと思うんですけども、独立行政法人になってから、研究のために市内の学校と連携をとるようなことがあったりすると、それが小中学校には逆に負担になるところがあったりというような気はします。

◎渡邊委員長 問題点も出ているところがあるということですね。

◎小川委員 はい。そうだと思います。

◎渡邊委員長 ということです。ほかはよろしゅうございますかね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次、評価シート22番目。よりよい地域社会を目指して地域貢献活動にかかわろうとしている児童生徒の割合ということでの指標です。小学校は昨年が54.6で、今年は57.3で、漸増した。中学校は47.4で、今年52.6ということで、これもちょっと増えた。結果については年々増加しており、小中学校に浸透してきている。各校で児童や地域にあわせた「特別活動」を教育過程に明確にしていくことの継続と実施後の検証をお願いしたい。また、文科省の教育方針の改訂により、この取組も重要な教育の一環になり得る。国の教育行政と考え方をうまく調整して連携し、効果的な情報発信を行い、取組を強化してほしいというコメントでございます。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が23番であります。この指標は、しごとづくりに関する相談件数ということで、創業相談件数です。昨年が163で今年は88と半減したということですね。これは喜ぶべきことかどうか、よくわからない。AからDに数値が減ったということで評価が下がっています。相談件数は目標を下回っているが、関連事業での相談件数と合わせれば増加しており、今後も創業支援を継続してほしい。また、相談件数減少の要因を分析してほしいとの意見もある。連携協定を結んでいる大学と相談したり、民間に席を譲っていく工夫をしていくのがよいのではないかとということで、皆さんの御意見がまとまっているということでございます。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が評価シートの24、審議会等への女性の参画率でございます。これは昨年在32.7で、今年は32.3と、その前から見ても32%、31%でずっと推移しているということです。評価ですけれども、女性が関心を持つ環境整備やPR等が必要だという意見や、性別ではなく、意欲や能力で委員を決めるべきだという意見、KPIと施策の関係性が希薄であるとの意見があるということで皆さんの御意見をまとめたということです。よろしゅうございますかね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 評価シートの25、これが多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるという目標の最後でございます。男性職員の育児休業取得率ということで、昨年在15%で、今年は30%、2倍、倍増したということです。目標達成をしていることから評価しているという意見と、目標達成しているものの、取得者数の数の少なさを指摘している意見もある。パーセントでいくと多いんだけど、絶対値は少ない。また、情報の提供は重要であり、その下で対象者がどう考えるかだという意見や育休取得の代替として、臨時職員の配置を検討する際にこがねい仕事ネットの充実も図れるのではないかとこの意見もあるということでまとめられております。よろしゅうございますかね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 以上が、多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てができるまちということで、16から25まででございます。ざっと読んだわけですが、特にこの中で、うーんというところがあれば、御指摘いただきたいと思います。鴨下委員、何かありますか。

◎鴨下委員 特に結果を変えたいとかはないんですけども、評価シート22番のボランティア活動に取り組んだ児童生徒の割合が、中学校の割合が順調に増えていっているのがすごくいいなと思いました。

◎渡邊委員長 そうですね。

◎鴨下委員 小学校は平均して高い数字のため、微増傾向ですが、中学校はすごい割合で増えているので、小学校で取り組んだ成果なのではないかなと思います。

◎渡邊委員長 小学校は初めから高いんですね。

◎小川副委員長 この評価シート22のところは、いわゆる持続可能な社会の形成者を作りましょうというのが今度指導要領等にメインでありますので、その中で、いわゆる特別活動を充実させていくというのがありますので、それが前倒しで指導要領が出ていましたので、その辺がいい影響が出てきているのかなというふうに思います。

◎渡邊委員長 ほかに何かコメントがありますか。

(「なし」の声あり)

◎渡邊委員長 じゃ、次に参りますか。評価シート26ってないんですか。

◎事務局 26は2と重複のため、ございません。

◎渡邊委員長 同じですね。じゃ、次。27から39までが「時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち」という基本目標です。27は高齢者自立支援住宅改修給付事業の給付件数というのが指標になっております。38件から30件と今年減っております、ずっとDなんですけれども、60件の目標になってはいますが、それに至っていない。本事業を必要としている人に届いていけば問題ないという意見と、目標未到達であり、ニーズと課題の把握が必要だとの意見もある。また、「高齢者の自尊心」あるいは「他者に迷惑をかけたくない」という思いが本事業にブレーキをかけているような気がし、それをクリアできる説明が必要ではないかという意見があったということで、3点くらいの意見が併記されている。これはようございませぬかね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 28、これはC o C oバスの利用者数です。昨年が104万3,760名から今年108万6,864ということで、大体この数字ということですね。大体100万ちょっとということで、これもDからBになる。ちょっと増えたからなのかな。利用実態に沿って再編計画の検討に着手し、一層の向上を図りたいということで、皆さんの意見をまとめているということです。よろしゅうございませぬかね。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が29で、自主防災組織の数。これはずっと変わらなくて、27団体ということでずっと来ています。目標は30団体ですが、全く増加しないのは何か問題があるのではないか。問合せがあっても、なぜ結成できないのか、要因を分析する必要がある。また、自主防災組織の運営のソフト面の協力が重要ではないかという意見や、一つのまとまりが想定される地域(地区)のコアとなり得る団体・組織(町内会、管理組合、公民館グループ、会社、公的団体等)に結成を呼びかけていくことはどうかとの意見もあるということで、皆さんの意見、増えない理由を究明すると、それから、増やすために地域のコアのところに働きかけたらという意見でございませぬ。よろしゅうございませぬか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 30。刑法犯の認知件数。1月から12月までの刑法犯の認知件数、警視庁が発表ということで、これは894件から808件と減っている。これはずっと1,290件から

1,070件、894件、808件と少しずつ減っているということですね。でも、800件もあるとも言います。前年から減少している。引き続き地域・関係諸機関との連携をしてほしいということでまとめてあります。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次、評価指標の31、認知症サポーター数ということでもあります。これ、昨年度が5,626人で、今年が6,353人ということで、これは目標が4,700名だったのが、ずっとオーバーして経緯して、さらに増えていっているということです。認知症サポーター養成講座などの回数や質の向上が求められている。幅広い年代へさらに広めていただきたいということで皆さんの意見の集約としてまとめられているところです。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が、評価シート32番で、地域密着型サービス事業所ということで、いっぱいあって読み切れないので、27か所から26か所ということで、31か所にしたいということだったんですけども、初めは28か所だったんですけど、27、26と少し減ってきているという状況です。予算を伴う事業の難しさがある。重要かつ困難な事業だが、事業者数の減少、人数確保など、課題解決に向けて何とか具体策をひねり出し、事業所数をマイナスからプラスに転じてほしい、がんばってということだと思います。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が33で、小金井さくら体操の参加者数というのが指標です。これは510人、774人、907人、950人ということで、飽和しつつはあるけれども、増えているということです。すばらしい取組であり、参加者数が倍増になるようにしてほしい。また、より多くの拠点で実施できるよう、連携機関を増やしてほしいということでまとめてあります。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 ここに参加している人と話したことがあるんですけども、みんな本当に生き生きしていますね。

それから34。65歳健康寿命の延伸ということで、男性が81.4から81.7で、0.3歳延びた。女性が82.6から82.7で0.1歳延びたということでもあります。健康寿命を長くするためにも事業の継続や他課の事業と連携するなど、更なる取組の強化を行っていただきたいということで、これをもっともっとがんばってやっていってくださいということですね。世界的レベルから見ると、結構いい線は行っていると思うんですけども。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 評価シート35。スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数ということで、これは昨年度が1万6,336から今年が1万9,886人ということで、3,000人ほど増えているということです。年々増えていっている。28年、29年はほぼ同じですけども、増えて

いる。参加者の増加は評価できるが、60周年事業による増加であるため、種目等を見直し、パラリンピックを目指す人も参加できるようにするなど、今後の取組が重要となる。また、大きなイベントを利用すれば、参加者はもっと増えるはずであるということで、健常者だけでなく、パラリンピックに出るような人も支援してはとのコメントを生かしたということですね。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が36番。高齢者いきいき活動講座の参加率ということで、高齢者のいきいき活動講座延べ参加者のうち、実際に講座に参加した延べ数ということで、これが78%から94.2%ということで、急激に増えているということですね。とはいえ、もともと81%だったのがちょっと76.0%、78.0%ということで、でも増えていますね。カリキュラムを時代に応じて見直すことが重要である。参加率並びに実数が増加していることを評価する意見と参加率で測ることの意味が不明であり、それだけを生きがいとしているわけではないから、「生きがい」と気負うことは不要という意見もあるということで、参加率で測ることのKPIとしての指標はどうかという意見です。これは今後の見直しの課題ということですね。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 次が37、ボランティアセミナー参加者数です。これは139人から233人ということで、100名弱増えたといえども、去年がちょっと少なかったということです。でも、増えている。参加者増加の要因を分析し、講座に参加した方が実際にボランティア活動に参加できるような工夫や実際のボランティア（例えば空き缶拾いなどの）に参加する企画としての体験的セミナーを検討してはどうかという意見でまとめてあります。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 38番。図書館における住民1人当たりの図書貸出冊数というものが指標であります。昨年が7.6冊、今年は8.0冊ということで、一昨年、27年、28年に戻ったというのか、ほとんど変化していないですね。8.4冊を目標にして、D評価。図書館の使い勝手は圧倒的にひどいレベルにあるが、情報化社会の図書館の在り方を抜本的に見直さないと、元来の図書館機能は失われると思うし、貸出冊数という目標値はIT化が進む現代においては見直しが必要だと思うということで、情報化社会の中における図書館の機能というものをもう1回見直してみたらどうかという御意見、こういう視点もあつたほうがいいかなということだと思います。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 それで、最後ですけれども、公民館の平均稼働率ということで、67.3%を目標にしているんですけれども、昨年が63.8%、今年は63.4%ということで、一昨年が63.0%、その前が58.6%ですから、大体この数字で推移しているということです。ここに

書かれている展望は妥当だが、市民協働・公民連携の視点からの充実を考えたり、新たな利用者が増えるようにコンテンツの検討や建物の充実を期待するという格好で皆さんの御意見をまとめたということでございます。

以上、27から39、「時代に合った地域をつくり、安心・安全に暮らせるまち」ということで、27からありましたけれども、全体の中で御意見、評価シートでコメントがあればいただきたいと思います。いかがでしょうか。橋田委員、何かありませんか。

◎橋田委員 29番、せっかく自主防災組織の結成について問合せとか来ているんだったら、具体的なことはわからないですけど、こうすれば結成できますというのが一般常識からずれているから結成できないのか、もう少しで結成できるんだったら、そこを緩和するとか、その辺で増えるんじゃないかなと思うんですけども、そこは書いていないのでよくわかりません。

◎渡邊委員長 その具体策として、地域のコアとなる組織だったり、町内会とか管理組合、公民館グループ、会社、公的団体等にちょっと呼びかけてみたらどうでしょうかという意見ですよ。

◎橋田委員 結成までです。

◎渡邊委員長 それが本当に効くかわからないですけども、1つの案としてですね。

◎小川副委員長 私も29番は気になっていて、いろんなところで意見を言っているんですけども、はっきり言って、町内会とか、昼間どなたがいるかということを見ると、かなり難しいというのが実感なんですね。私は、後で山本委員にもちょっとお聞きしたいんですけども、会社などでは自主防災というのはどんなふうになっているのかなと思うんですね。例えば、多摩信用金庫さんなどでは昼間、何かあったときに、地震とか何かあったときにどういうふうになっているのか。例えば、働いている方は帰るのか、自宅に戻れというようになっているのか。地元のところでとどまって支援しろというようになっているのか。どういうふうになっているのか。

実際に22年の国勢調査だと、2万7,360人が市内で働いている。そのうちの半分は、1万5,000人は市外から来ているわけなんですね。そうすると、働いている大人たちがさっといなくなっちゃうか、それとも市内に残っているかで随分違うだろうと思うんですね。私は、いかに会社の方たちを市内に引きとめて、防災というか、お手伝いをしてもらえるようにしていくことが大事なのかなと思っているんですけど、多摩信用金庫さんなんかではどうなっているんですか。自主消防隊はあるかと思うんですけども。

◎山本委員 会社としてですか。

◎小川副委員長 はい。わかる範囲でお願いします。

◎山本委員 ビルに今入っているの、避難訓練とかはそのビルが実施するものに参加しているという感じになるんですね。地域とのかかわりというと、ちょっとすいません、私はそこまではちょっとわからないんですけども、立川市ですと、企業とそういう防災の連携を、いざ起きたときの連携みたいなのは結構いろんな市内の企業と結んでいるようなので、いざという

ときはその場所を開放したりですとか、帰宅困難者の受入れとか、あと備蓄している物資を開放するというのは結構、数は多いというふうに聞いております。

◎小川副委員長 小金井市も、例えば病院とかなんかは、太陽病院と、それから桜町病院がして、何かのときに、それから、この間は小金井リハビリテーションでやっぱり何かあったときの訓練、そこも指定病院というか、うちもやりますよみたいなことを言っていたと思うんですね。病院なんかはできているところはあると思うんだけど、一般の会社ってどうなっているんでしょうね。

◎渡邊委員長 会社内部で社員が安全になるということだけをやっている。

◎松本委員 僕は東北大地震のときに四谷からここまで帰ってきたんですけど、四谷を出たのが6時か7時ぐらいかな、動いている交通ルートを使って花小金井駅にたどり着いたのが夜中の3時、そこからこちらまでタクシーで帰ってきたんですけど、これがもうちょっと大きい地震とかになったら、もうほとんど壊滅状態というか、人数が多過ぎちゃって収拾がつかないですよ。どうしようもないと思います。あのときでさえ前へ進まないわけですから。交通はストップしちゃって、使えないし、やっとな動き始めたらみんなそこへ集中するから、ますます混乱していくわけですから、震災とか、そういう災害の規模によって全然状況が違いますよね。

僕は今、マンションの管理組合の理事長をやっているんですけど、管理組合あたりにもうちよつときちんとかこういう問題をどうするんだということをやってくれというふうにやっていくのがいいんじゃないかと思っているんです。それでここに書いたんですけどもね。

さっきおっしゃるように、都心に行って働いている人は帰ってこれないと思ったほうがいいんです。そうすると、マンションの中では、どういう条件、どういう状況の人がいるか、いろいろまちまちですけども、管理組合の人ぐらいだったら、老人がいるとか、あそこは動けないとか、動くとか、そういうようなことをある程度わかっていますから、全く知らない人がどうのこうのとやるというよりも、安全面への配慮がどこまでできるかという問題はあるんですけども、管理組合をキーにして何らかの対応がとれるようにやっていくというのが1つあるんじゃないかなというふうに思いますね。

もう1つは会社ですよ。会社か、工場か、そういうところで、きちんとした対応をとれるようにふだんからお願いしたり、教育というか、訓練したりしておくというのが必ず必要になるんじゃないかなというふうに思いますね。

◎渡邊委員長 今のことはマンションの管理組合に行政からお願いするというのが一番いいと思う。

◎松本委員 そうですね。言ってくれば動きやすいです。

◎渡邊委員長 多分、どこに誰が住んでいて、大体この辺に寝ている、大体同じ造りですから、ここというのはわかるんですよ。

◎松本委員 それはやっぱり理事の間である程度、そういうのをふだんから打ち合わせておいて、メンバーそろわないじゃないですか、役員全部そろわなければならないんで、何かあったとき

にどうするんだと、本当に困った人というか、動けない人をどういうふうに補助してあげるのか、その辺はある程度理事会なんかで意思統一を図っておくというのは、やろうと思えば十分できる話なんです。ただ、きっかけがないから。

◎渡邊委員長 行政のほうから何か声がかかればね。

◎松本委員 それは大きいです。

◎渡邊委員長 管理組合に市のほうからこんなの言ってきているんだけど、どうしようかという議論になりますよね。

あと、会社とか大学というのは既に自主、これがあるんですよ、みんな。それがカウントされていないだけであって。総務部とか何か、この間も3・11のときに学生をどうするか、教員の泊まる場所をどう確保するかとか、そういうのも担当が決まっているんですね。だから、そういうのはカウントしていないんだ。またする必要もないかもしれないんだけど。

◎松本委員 今、大きい会社のエレベーターに食料とか水を置くようにしていますよね。進んでいますよね。

◎渡邊委員長 むしろ地域における自主防災、マンションとか、そういうのは非常に重要なという気がしますね。

◎松本委員 僕が理事長をやっている間に言ってきていただければ、何か整理しますよ。役所から声をかけてもらうのが一番早いです。

◎渡邊委員長 結局、消防も来てくれないし、救急車は来れないですから。

◎松本委員 そうです。もう全然動けないですから。

◎渡邊委員長 自分たちでやるしかないんですね。

◎松本委員 この先に水道局の水を供給するところがありますね、あそこに本当に行けるかどうかわからないし、重たい水を老人が持つということもなかなか難しいし。みんなで助け合う体制を作っておかざるを得ないはずですよ。

◎渡邊委員長 ここのところは具体的なイメージが作れたらいいですね。

ほか、ありますか。結構個々が深い意味を持っているんですね、実は。

◎松本委員 さっき小川副委員長から、「拡充というのはおかしい」といったらおかしいじゃないかと言われました。34番が、同じように「延伸」ということですから、「拡充」とほぼ同じ使い方ですよ。これに具体的な数値を入れるということはありませんか、難しいです。人間の年齢をどうするというのは恐れ多いことですから、ここに何歳延ばすとか何とかって、そんなこと言ったらかえって大変ですから、これは当然やむを得ないと思いますが、さっきのホームページでの連携というところで、結果もフォローしていない、Cをつけっぱなし、それでその目標を見たら「拡充」というのだったら、やる気がないんじゃないかと思わざるを得ないと思いますね。

◎渡邊委員長 この評価のことからいくと、KPIの設定というのは非常に難しく、質にかかわることはなかなか数値化できないし、また、すべきじゃないところはあるんですね。でも、

国のほうがそういうふうにしろというから無理やりやっちゃうわけです。

◎松本委員 それはよくわかります。ただ、ホームページのアクセス数を数値ではなく、定性的にどうこうしろという目標を立てるぐらいだったら、そんなもの言う必要ないじゃないかと。そんなことで時間とられて、これだと紙1枚、何枚作るんですかね、印刷代とか、紙代ってばかにならないですよ。行政経費の無駄遣いじゃないかと言ってもおかしくないようなことなので、もう少しその辺は自分自身がやっていることをシビアに見ないといけないんじゃないかということを書いたかったです。

◎小川副委員長 拡充というから、どこかにつなげることをいっぱい作っていけということなのかなとか、いろいろ思った。

◎松本委員 「拡充」という言葉自体が、「拡大する」プラス「充実する」という、あいまいな言葉ですから、何を伝えるかというのが、ぼやかされているわけですね。広がらなくても充実していると言えればいいんだという目標ですから、二重三重にこれはおかしい。

◎小川副委員長 増えればいいというものじゃないですよ。どこかのゆるキャラじゃないですけど、組織票で何票いけばいいなんていうので、1人何回やれみたいなのがあったりしたら、それも困りますものね。

◎渡邊委員長 数値の扱いは、本当はもう少しちゃんとしたほうがいいですね。

ということで、令和元年における評価シートで皆さんの御意見を集約したコメントということで、先ほどてにをはでちょっとおかしいところがあったので、それは直してください。

◎古賀企画政策係長 はい。

◎渡邊委員長 そんなことでよろしゅうございますかね。この評価シートに書かれていないいろいろな意見が出たので、それは会議録に残るということです。

以上で議題5を終了します。

◎渡邊委員長 次に「議題6 次回の開催日について」を議題とします。

事務局からの説明を求めます。

◎古賀企画政策係長 次回の開催は10月を予定しておりますので、9月上旬頃に委員の皆様へメールにて日程調整させていただき、出席委員が一番多く見込めるところで開催したいと思います。

なお、次回の開催は現時点での予定であり、先ほど御説明させていただいたとおり、今後の国の動向により、開催月を変更する可能性があることを御承知おきください。

◎渡邊委員長 事務局からの説明が終わりました。次回の開催日については後日調整ということですので、よろしくをお願いします。

以上で本日の議題はすべて終了しました。おつかれさまでした。

(午後8時25分閉会)